



町 膳 内

自治会通信

《第13号》

会報編集委員会
平成24年12月発行

師走の安心・安全を守る 地域の組織が防犯、防災活動を実施

今年も残り少なくなってきました。年末に多発する犯罪や火災を未然に防止し、明るい新年を迎えるために地域の組織による活動が行われます。

防犯、防災啓蒙活動

年末防犯防災活動 12月24日～26日
年末特別火災警戒活動 12月29日

近鉄八木駅前交番管内の組織で構成される近鉄八木駅周辺重点防犯防災関連協議会による「年末防犯、防災啓蒙活動」が12月24日(振替)26日(水)の三日間(19時～21時)実施されます。近年、八木駅前交番管内においても、諸犯罪が増加傾向にあります。同協議会では駅構内でチラシやグッズを配り防犯意識を訴えると共に、毎日2班に分かれ夜回りが予定されています。

火災警戒活動

檀原市消防団・第八分団が主催する「年末特別火災警戒活動」は12月29日に行われます。(内膳町防災会は協力参加)晩成小学校の子供たち、学校、PTA、地域の人々が19時30分にすみれホールへ集合し、共に内膳町一円を「火の用心」の夜回りをします。年末年始は何かと火を使う機会が多く、また冬は空気が乾燥しているため火災が発生しやすい季節になります。夜回りを通して地域の人々に、「火」に対する気持を新しくもって貰うための呼びかけが行われます。



師走を告げるイルミネーション点灯

近鉄八木駅南側ロータリー及びその周辺地域に飾り付けられた「イルミネーション」が12月1日に点灯され、街に師走の訪れを告げています。(25年1月31日まで)

年末のご挨拶

内膳町の皆様には今年も一年を通して、自治会活動にお力添え頂きありがとうございました。今後も地域の交流を図るとともに、安心、安全な街づくりを推進してまいりたいと思っています。何卒ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地縁団体内膳町自治会

会長 梅村 信嘉

災害に備えよう 内膳町防災会

災害時の被害を最小限に抑止めるためには、事前の備えが大切です。家族で連絡や避難方法を決めておくことや、天気予報、気象情報にも日頃から関心を持つておくようにして下さい。また、自宅からの避難やライフラインの断絶に備えて、当面の生活を支える非常品を用意しておきましょう。

内膳町防災会では9月17日の「防災フェスティバル」開催時に「非常時の持ち出し品」についてのアンケートを行いました。その集計がまとまりましたので報告いたします。アンケートには112名の方が協力下さいました。

今回の調査で多くの方がいざという時の備えに関心をもっておられました。アンケートの結果内容をご家庭でも話しあってください。

安心安全環境部会活動報告

◆夜回りを強化

安全安心委員会では防犯活動の一環として10月より夜回りを行っています。犯罪が多発する年末年始を特別強化月間と定め回数を増やすことになりました。12月は20日を予定しています。

◆飛鳥川堤に街路灯を設置

飛鳥川の堤が一部崩落(内膳春日神社の裏側付近)しているため、車や単車の落下事故が頻繁に起こる。との報告を受け、安全安心部会では10月末に現場を検証しました。自治会として公的機関へ堤の補修を申し入れるとともに、現場周辺には照明灯が無く、夜間は真

非常時持ち出し品アンケート集計(品名は複数を選択して頂きました)

※とっさの時に持ち出すもの

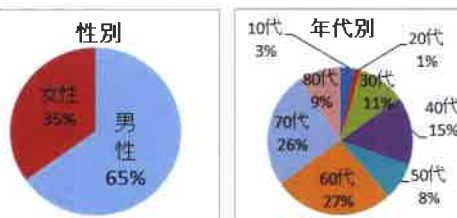
1位	非常持ち出し袋	34票
2位	携帯ラジオ	31票
3位	飲料水	30票
4位	懐中電灯	26票
5位	救急用品セット	24票

※数日間をしのぐために持ち出す物

1位	飲料水	53票
2位	非常食	39票
3位	携帯食	33票
4位	携帯ラジオ	23票
5位	持病薬・常備薬	18票

※普段から持っていたほうが安心

1位	携帯電話	61票
2位	身分証明書	42票
3位	飲料水	41票
4位	現金(10円玉を含む)	31票
5位	懐中電灯	24票



つ暗になることが事故の大きな要因と判断。早急な対処として崩落箇所には街路灯を設置することを11月10日の役員会で協議決定しました。工事は年内に完了する予定です。

◆4丁目の街路灯設置完了

前号でお知らせしました4丁目の街路灯設置工事が11月20日に完了しました。12月3日より点灯されています。



八木駅周辺をパトロールする安心安全部会委員

すみれホールからのお知らせ

会館南側通路の改修工事完了

12号でお知らせしました、南側非常口へ通じる通路の改修工事(幅約160cm)が10月末に完了しました。それにより一階が葬儀で使用されている場合は、他の用件で来館される方は、非常口から出入りして頂けるようになりました。



会館北側に掲示板を設置しました

地域の情報発信基地として、会館北側に掲示板を設置しました。自治会の行事予定や地域の情報、また会館で行われている教室(コーラス、お花など)の催案内を掲示しています。お近くを通られる際は是非ご覧ください。



年末年始の休館日のお知らせ

すみれホールの年末年始の休館日は12月29日(土)～1月3日(木)となっています。

日帰りグランドゴルフツアーに 16 人参加 善寿会が認定コースにチャレンジ

ホームグランド(さくら公園)で培った実力を認定コースで腕試し！
善寿会有志による「日帰りグランドゴルフ遠征ツアー」は11月29日(木) 16名が参加して実施されました。
午前8時20分迎えのバスに乗り込み八木駅を出発。行先は名阪国道一本松インタ



みんなで認定コースに挑戦しました

ーチェンジを降りてすぐの大和高原ボスコヴィラ。山中に位置するため寒さが心配されましたが、この日は気温が12度まで上昇。絶好のプレイ日和となりました。

今回挑んだコースは、小石でイレギュラーすることが多い「さくら公園」とは違い、全(6)コースとも距離が230(8ホール計)以上あり、整備状況は上々。中でも日本グランドゴルフ協会に認定されている「福」・「寿」の2コースは各ホールが植え込みでセパレートされていて、天然芝が張り巡らされていていました。穏やかな気候の中、参加者は日頃の実力を気分よく出せたようです。

に実施したフォトコンテストの入賞作品を会場内の別コーナーに掲示しました。



二日目は好天に恵まれ、大勢の方が来館されました

秋まつり写真展開催
11月17日、18日の二日間、みれホール五階大ホールにおいて「秋まつり写真展」を開催。実行委員会広報部が撮影した約200枚のスナップ写真を掲示しました。
初日はあいにくの雨模様となりましたが、二日目は天候も回復。両日併せて120名を超える方が家族や友人同士で来館。掲示写真を見ながら盛況に行われた秋祭りを振り返っておられました。また写真展と同時に、秋祭りを対象

計の数字が先になるのは、さすが健康をもっとこうとする善寿会の理念です。
昼食時は昔話や名プレイ、珍プレイを話題に盛り上がり、ワイワイガヤガヤと楽しい時間がアツと言う間に過ぎて行きました。
午後からは帰りのバスの出発時刻までフリータイム。再プレイ組とカラオケ組に分かれてそれぞれ晩秋のリゾート気分を大いに満喫。
閉会式では秦会長が「楽しい一日でした。暖かくなったから又来ましょう」と挨拶。そして午後三時、参加者一同次回の挑戦を楽しみに家路につきました。

秋まつりを総括

11月10日の役員会において「秋祭りの反省会」が行われました。初めに、執行部から総評として事故もなく盛況に開催された旨が述べられた後、各委員から総括報告が行われました。交通担当からは「だんじり乗車希望者なるべく同じ距離間乗せてあげるようにするため、各日の申し込み人数に応じて柔軟なコース設定予定よりも多かった場合は総距離を延長するなどが出るかどうかを次年度の課題にしたい」との発言がありました。その他、催しや参加券の販売方法の見直しについて意見が出されました。

紙行灯が幻想の光景を醸し出します



昨年の大みそかの光景

お正月が近づいてきました。皆さんのお宅では大晦日をどの様に過ごされていますか？テレビを見て過ごされる方、早々と初詣に出かけられる方などいろいろな方がおられることと思います。今回は内膳春日神社の境内に飾られる年越し恒例の「紙行灯」を紹介します。大みそかの午前0時前、境内に整頓されて並べられた円筒形の紙行灯のローソクに一斉に火が灯されます。行灯の中で揺れ動くろうそくのあかりは年越しの風情と重なり合って、境内に幻想的な場面を演出します。(午前2時頃まで灯されます)

もうすぐお正月です

雑煮の餅にきな粉をつける独特の食習俗

貴方のご家庭ではお正月の雑煮の餅をどのように食べられますか？近年は県の内外から内膳町に移り住んでこられた方も多くおられるので、各家庭によって異なることと思います。

今から6年程前、某大学の助教授によって20年にわたり調べられてきた、大和の食文化(行事食や郷土食など)に関する特集記事がN全国紙に掲載され、その文中に「雑煮の餅」が紹介されていました。それによると奈良盆地から吉野地方には、雑煮の餅(丸餅)をお椀から取り出し、砂糖入りのきな粉に付けて食べるという独特の食習俗があると記されていました。最近でこそいろいろな情報手段により、この食べ方が知られるようになってきましたが、以前は他府県の人にその話をすると、けげんな顔をされたものです。(永年それが普通だと思っていました...)きな粉を付ける理由については「餅に味が無いから」といった答えが多く、その由来ははっきりしないようですが、同氏は、16世紀の中国の薬物辞典「本草綱目」に原料の大豆は「鬼毒を払う」とあり、そうした考えに基づく食べ方が、食文化の発祥の地ともいべき奈良に残ったのではないかと述べています。